

令和4年度 第2回 安曇野暮らし支援協議会 会議概要

- 1 協議会名.....令和4年度 第2回 安曇野暮らし支援協議会.....
- 2 日 時.....令和4年12月26日 午前10時から11時まで.....
- 3 会 場.....安曇野市役所 3階 会議室306.....
- 4 出席者.....横田委員、北林委員、安谷屋委員、浅川委員、醍醐委員、中嶋委員、相馬委員、  
宮崎委員、松本委員、宮澤委員、(小林委員欠席).....
- 5 市側出席者.....移住定住推進課 赤沼課長  
移住定住推進係 所係長、奥村主査、平野主査
- 6 公開・非公開の別.....公開.....
- 7 会議概要作成年月日.....令和4年12月26日.....

協 議 事 項 等

[次 第]

- 1 開 会
- 2 事務局職員の交代
- 3 会長あいさつ
- 4 会議事項  
(1) 市の事業等の実施状況について  
(2) 各団体の取り組みについて  
(3) これから実施する事業について  
(4) 協議会構成の改編とホームページ修正について  
(5) その他
- 5 閉 会

[会議概要]

○事務局職員の交代

10月に市の人事異動があり、事務局職員が変更となった。  
移住定住推進課 係長 山田 裕二 → 係長 所 太久馬  
移住定住推進課 奥村彩佳【追加】

○ 会議事項

(1) 市の事業等の実施状況について

- ・今年からZoomを活用したオンラインセミナーに力を入れている。毎回テーマを変え、今年度は8回予定しており、そのうち5回実施した。参加者は同じ方を含め93組136人。直近の回は現地セミナーとオンライン配信のハイブリッドの形で実施した。
- ・首都圏でのセミナーは銀座 NAGANO で実施。1回目は別フロアで農政課や観光課のイベントも同時に開催し、移住大使の篠原さんにも出演いただいた。参加者は18組27人。
- ・体験ツアーは小倉4区の区長と移住者2組が参加し、いくつかグループに分かれ地元の方との交流会を行った。参加者は7組12人。

- ・おためし住宅は感染警戒レベルが高い場合には新規予約を停止するなどしたため、月でばらつきがある。また、夏のいい時期は利用者が多いが、冬は少ない。
- ・オンライン個別相談は随時行っているが、件数は少ない。オンラインではなく窓口で直接相談したいという方が一定数いる。
- ・松本地域振興局主催事業はこの後担当から説明。県主催事業は少子化対策の関係部署が主催し、移住×婚活をテーマに参加者は18歳以上の独身者に限定されたもの。

【質疑応答】

- ・空き家の活用と併せた移住施策があれば聞きたい。  
→空き家活用係では明科や穂高地区のまちあるきは4回予定している。参加者には県外者も多く、そこで移住の相談にも乗っている。各アンケートでは移住後は空き家を探しているという意見もあるため、セミナーに空き家の活用を織り交ぜて事業を実施している。
- (2) 各団体の取り組みについて
- ・商工会では、創業セミナーを毎年実施しており、県外の方もいる。コロナ禍では参加者が少なかったが、今年度は20名募集して18名申込。創業と移住相談といったケースが今後活発になっていくと期待している。
  - ・宅建協会では、県などから要請があった場合に、移住セミナーに職員を派遣している。昨年と比べ、R4は首都圏へ出向くことが増えた。  
(質問) 宅建協会主催のセミナーか。  
(回答) そうではなく、県・ふるさと回帰支援センター等からの依頼により協力している。
  - ・全日本不動産協会では、セミナーなどはないが、年に一度全国大会があり参加した。山口県で行われたが、移住の取り組みの話があったため、全国的に移住者を取り込もうとしていることがわかった。
  - ・建築士会では、相談窓口を設け、メンバーを固定して対応している。相談内容は多岐に渡り、建築に関すること、移住、耐震など様々。県の建設事務所内にあるので、県に問い合わせがあった中で安曇野市の物件など対応した。
  - ・あづみ農協では、新規就農者の支援ということで、里親制度の取り組みを行っている。県外からも新規就農の相談も少しずつ入り始めている。
  - ・ふるさとづくり応援団では、地域を歩くという活動を行っており、県外の方も一定数いる。応援団の半数以上は移住者なので、移住相談にも乗っている。昨年度から市の空き家活用係とNEX-T安曇野と連携し、空き家見学とまちあるきを実施。まちなかカレッジに併せて来年3月に穂高で実施予定。また、子どもたちのふるさと探求ということで、姉妹都市の武蔵野市から子どもたちが来て、一緒に謎解きウォークをしている。移住に関しても、子どもたちも巻き込んでできることがあればよい。豊科北中からも空き家の活用ということで探求学習として計6回の講座を行った。今後も空き家に絡めて地元の子どもたちを巻き込んで行えればよい。
  - ・松本地域振興局では、松本広域の3市5村をまとめて紹介することで地域の魅力をPRする、そのお手伝いということで事業を実施している。まず一つが東京で行った相談会。内容は先輩移住者の講演と、その後各自自治体のブース、宅建協会、ハローワークのブースを設け相談を受けていただいた。先輩移住者には安曇野市の移住者にも出演をいただいた。全体として参加者は47組。もう一つはスタジオを設け、オンラインでつなぎテレビ番組のような形で生配信を行った。テーマは仕事と住まいで各市村にそれぞれ魅力を発信してもらった。同時視聴数は23人。
  - ・観光協会では、独自では特にはないが、移住体験ツアーは協会が実施。次回は来年の2月に実施予定。

(3) これから実施する事業について

- ・オンラインセミナーはあと3回実施予定。Zoomの録画機能を使い、都合により見れない方でも後日見れるようにしていきたい。
- ・首都圏でのセミナーは銀座NAGANOにて実施予定。篠原さんに出演いただき、座談会の形で予定している。
- ・今年度の移住体験ツアーはアウトドアがテーマで、次回は国営公園でスノーシューを履いてアニマルトラッキングを行う予定。
- ・JOINフェア、ナガノのトビラ、いなスタにブース出展する予定。
- ・県の大阪事務所の担当者から、大阪方面でも安曇野市への移住希望者が一定数いるとのことで、出張個別相談を行う予定。
- ・県主催事業は楽園信州セミナーに参加。詳細は未定。

(4) 協議会構成の改編とホームページ修正について

(協議会構成の改編)

- ・協議会は団体間の連携を図ることを趣旨としている。令和5年度の改選を機に、実質的に安曇野市の移住相談を担っている2団体を追加したい。追加団体は、①合同会社ベースキャンプ安曇野、②合同会社うずまきの2社。また、委員の選出数は各1名としたい。

【質疑応答】

- ・合同会社は営利企業のため、今後同じような法人があった場合にどうするか線引きを明確にした方がよい。過去もそのような理由で見送った経過がある。団体という表記をしている要綱の問題と営利に結びつかないようにどうやってするのか、他からも言われる可能性があるので、検討した方がよい。  
→実質的に営利目的かどうかの線を引くことは難しいが、そういうことは起こり得る。協議会の中ではそういった直接的に営利に結びつかないよう工夫をしたい。
- ・移住に関わる団体も増えている。任期で終わりにするのか、追加していくのか、選出の方法などどう考えているか。  
→ゲストハウスや、自身で移住相談を行っている方を無視できないということから、まずは市長が特に認める団体として2年間加えたい。公募については、他自治体でも公募団体を入れているところもあるので、研究していきたい。
- ・営利に結びつかないようにしていくとのことだが、会議や事業で営利に結びつくことがあるのかわからない。  
→直接営利に結びつくことは考えにくいですが、移住者のご縁ができるので、その後自身の事業にプラスになることが考えられる。会議や事業で営業などといったことはできない。協議会の名前でセミナーや体験ツアーに協力をお願いする場合もあるが、営利に結びつかないよう確認していく必要がある。
- ・最終的には営利に結びつくと思うので、そこまで目くじら立てなくても問題ないと思う。
- ・追加予定の2団体には話して内諾は得ているのか。  
→下話はしてある。

(ホームページ修正)

- ・4月から課が誕生し、事業主体として市が移住施策を行っていく体制ができた。お問い合わせ欄については市が責任を持って事業を実施するという形に変更したい。また、協議会は情報交換の場であることから、役割分担の項目はその趣旨と現状に合う形に変更したい。施行日は令和5年4月1日から。

①お問い合わせ先

「安曇野市暮らし支援協議会（事務局：安曇野市市民生活部移住定住推進課）」→「安曇野市市民生活部移住定住推進課」

②協議会の構成

「事業ごとに組織名を列挙」→「構成団体名簿を掲載」

【質疑応答】

- ・松本地域振興局を長野県松本地域振興局に変更してもらいたい。  
→承知した。

(5) その他

【事務局】

- ・組織が変わったことによりパンフレットの電話番号などが違っている。今後 A3 両面 1 枚でのリーフレットを作成する予定。完成したら各団体に渡すので、移住相談があった場合など配っていただきたい。また、協議会委員の任期が今年度で満了となるので、各団体から推薦をいただきたい。

<終了 11:00>

以上